

夜、耳を澄ますと虫の声が聞こえてきます。童謡の「虫のこえ」を思いだし、「あれ、マツムシが鳴いている〜♪」と歌ってみました。すると、あれ?と思いました。家の外から聞こえる音が、チンチロリンなのか、リンリンリンなのか、ガチャガチャガチャと鳴いているのか分からないのです。昔の人が耳が良かったのか、風流だったのか……。皆さんも、親子で虫の声に秋を感じてみませんか。



## 1 「怒る」と「叱る」は違います

よく耳にしますよね、怒ると叱るは違う、と。はい、そうでしょうね、漢字も違うし。では、何がどう違うのか百文字以内で述べよ、とか言われたら困ってしまいます。せつかなので、この機会に「怒る」と「叱る」について考えてみましょう。

怒る

- 相手が、落ち込むほど成功
- 相手が、マイナス状態になることを望む
- 悪かったことを認めさせれば、満足
- 一方的な、言葉による脅し

叱る

- 相手が、現状から向上すれば成功
- 相手が、プラス状態になることを望む
- 「聞く」ことを重視する
- カウンセリングのようなもの



まず、親が念頭に置いておかななくてはならないことは、子どもは、失敗するのが当たり前だということです。

私たちは、30年40年と生きていますが、それでも、上手くいかないことも多々あります。それが、数年・十数年しか生きていない子どもたちにしてみたらどうでしょう。何においても、経験値が低いのです。

だからこそ、人生の先輩として、間違ったことをしていたら、「叱って」あげられると良いですね。

## 2 「甘やかしすぎ」って、何でしょう？

わが子はかわいいものです。子どもへの愛は、無償の愛だと言っても良いでしょう。しかし、「かわいい、かわいい」だけでは、子どもを不幸にしてしまいます。そうならないために、4つの「〇〇し過ぎ」に注意しましょう。



### 受け入れ過ぎ・・・

「はい、言うとおりにします！」

「車で学校に送って～」

「朝は起こして～」

などと、親に頼み事という“命令”をします。

聞き入れないと、親を悪者にし、親のせいにします。

### 世話の焼き過ぎ・・・

「はい、何でもやります！」

・ 服を準備してやる

・ 箸1本まで並べてやる

などと、子どもをお客様のように“おもてなし”しています。

本当は自分でできることも、だんだんやらなくなります。

### 指示の出し過ぎ・・・

「あれして、これして、次は・・・」

「早く食べなさい！」

「宿題をしなさい！」

などと、親がつきっきりで指示を出します。

自分で考えない“指示待ち人間”になってしまいます。

### 与え過ぎ・・・

「欲しいものは、何でも！」

「みんなが持っているから」

「100円均一だから」

などと、高額なゲームだったり、逆に安いからという理由で簡単に与えていると・・・

“がまんできない大人”になります。

～ あとがき ～



「知ってるよ、お酒を飲むお仕事でしょ。」

これは、40年ほど前、ある男性が我が子に「お父さんのお仕事は何でしょう？」という質問をしたときに、返ってきた答え。「えっ!？」思いもよらぬ答えでかなり面くらいつきの瞬間には、大笑いしたそうです。「確かに、毎晩のように飲み会があったり、単身赴任をしていたり、子どもとゆ

っくり過ごすことはあまりなかったから・・・。」昭和のお父さんたちには、そういう人が多かった気がします。

でも今は、ご飯の時間におしゃべりをしたり、休みの日におでかけしたり。直接話せないときにも電話したり、メールしたり、交換日記したり。それぞれの家庭で、「家族の時間」の楽しみ方も、いろいろですね。

今回のオススメ絵本は、「おへそのあな」著：長谷川義史です。